

今月の主なニュース

全国2次医療圏にみる地域格差とその課題
当協会健康創造室室長 岡部 英男

「私と協会」
神奈川県産科婦人科医師会監事 八十島 唯一

「養護教諭だからこそできる学習と発達の支援」
横浜国立大学教授 有元 典文

「保健室」
横浜富士見丘学園中等教育学校 近藤 うらら

セルビアから乳がん検診関連で当協会に施設見学

全衛連「健診品質の維持・向上を図るための決議」



ストレスチェック後の面接指導 集団分析の進め方

集団分析

好事例を水平展開

6月21日、本年度第1回かながわ健康支援セミナー（主催・当協会）が浜情報文化センター情文ホールで開催された。長年にわたってストレスチェックを自社のメンタルヘルス対策に導入・活用してきた三井化学株式会社本社健康管理室長統括産業医・土肥誠太郎先生から、医師面接と集団分析の効果的な進め方について解説いただいた。企業・団体の健康管理担当者ら164人（123団体）の参加があった。



「ストレスチェックの目的は1次予防です。高ストレス者を早期発見して、その人たちにアプローチする2次予防が目的ではありません」と土肥先生は再確認して、講演は始まった。多くの企業・団体に採用している職業性ストレス簡易調査（以下ストレスチェック）を用いてストレスチェック

を行うと、約10%の高ストレス者が出現する。それは、いったいそのうちの何%の人が制度で定めている「医師による面接」を希望するのだろうか。ある*EAP機関による3万人を対象にした調査の結果、高ストレス者のうち1%が面接を希望する、というデータが得られた。1,000人の受検者から1人が医師面接となる計算だ。

ストレスチェックは100分の1の人のために膨大な手間ひまをかけて行うわけではない。「労働者一人ひとりのセルフケアにつなげていくこと、また職場環境の改善に活かすことがストレスチェックを活用するためのキーワードです」

面接の仕組みづくり

「医師による面接」のみで対応するのか、産業保健スタッフによる「一般相談」を併用するのか、を決めることはポイントの1つ。法に定められた「医師による面接」の場合、ストレスチェックの結果は本人の同意をとったうえで、事業者へ通知される。「一般相談」では、その必要はなく、従業員との面談をおして過重労働や職場の環境要因が

と土肥先生はいう。

当協会

ストレスチェックのご案内

当協会ではストレスチェック制度導入のアドバイスから実施・結果報告・高ストレス者の医師面接、集団分析、そしてデータの保管まで、総合健康支援機関としての長年の実績と経験で支援いたします。

ストレスチェック調査は、紙媒体とWEB、両方での対応が可能です。結果通知では受検した労働者の方々が自身のストレスに対する気づきを得られるような工夫をし、専用のスマホサイトをご用意しました。結果通知のQRコードからサイトへアクセスすれば、動画でわかりやすくセルフケアのポイントや当協会メンタルヘルス担当医がストレス対処のポイントを解説しています。

健診機関に委託するメリットとは

1. 事業場の産業医とスムーズな連携をとり、健康管理の側面から支援いたします。

2. 医療情報と同様の万全の配慮により、ストレスチェックのデータも法に則り、安全に管理いたします。

3. ストレスチェックを健康診断と同時に行うことで効率的な実施が可能です。



明らかに認められたら、本人にストレスチェック制度の「医師による面接」を勧奨する、といった柔軟な対応が可能。また「一般相談」では医師以外の保健師や心理職が活用できる、というメリットもある。

「法律の最小限の範囲で医師面接だけを行うのか、高ストレス者への対応をひろく考え、一般相談を併用するのか、安全衛生委員会ですっきりと検討すべきでしょう」と土肥先生。

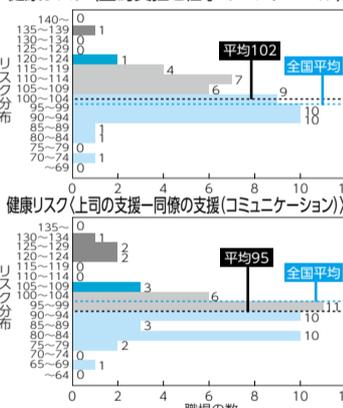
集団分析結果の活用

疾病対策として職場のメンタルヘルスを考える場合、まず必要なのは復職支援といった3次予防、その次がメンタルヘルス不調者の早期発見と対応という2次予防。また部署ごとの集団的分析を行う場合、各部署の得点の高低や差ばかりに注目しない、「各部署が会社全体のどこに位置するか」というデータ（図）を作り、個別の部署の結果と並行して示していくことが管理職に職場環境改善を促すために有効となる。

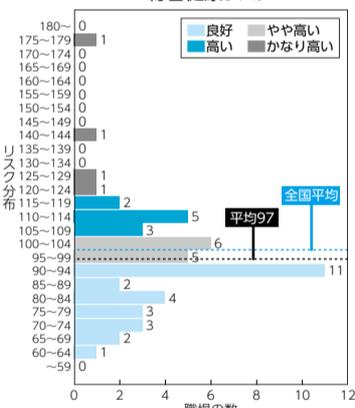
職場環境改善の進め方として、悪い部署を直そうという方法は難しい。それよりも結果の良かった部署に着目し「良い職場の良い行動をみんなでもねをしよう」という企業風土を創る「Good Practiceの水平展開」を土肥先生は提案した。

15年間、試行錯誤しながら集団的分析結果の活用を継続してきた三井化学では、従業員一人ひとりが職場環境改善を認識し、「働きたい職場をつくらう」という意識が生まれてきている。

健康リスク(量的負担と仕事のコントロール)



総合健康リスク



健康リスク(上司の支援-同僚の支援(コミュニケーション))

